

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 学校教育学系・准教授  
氏 名 城間 祥子  
 研究期間 平成29年度

研究プロジェクトの名称	地場産業を活用したキャリア教育実践における越境的学習
研究プロジェクトの概要	<p>キャリア教育の推進にあたっては、学校と家庭・地域・関係機関の連携が重要である。各地域では協議会を設置する、専門のコーディネーターを配置するなど、学校と地域等の円滑な連携のためにシステム構築が進められている。本研究では、地場産業という地域の資源を有効に活用してキャリア教育を展開している2つの事例に着目し、学校と地域等が連携する仕組みがどのようにして作られていったのか、連携のあり方がカリキュラムや子どものキャリア発達にどのような影響を与えているのかを明らかにする。</p>
研究成果の概要	<p>1. キャリア教育における「越境的学習」に関する理論的研究      キャリア教育における学校と地域等との連携について「越境」の観点から理論的な検討を行った。キャリア教育では、2つの意味で越境的学習が行われていると言えるだろう。1つは児童生徒が学校という境界を越えて社会の中のオーセンティックな活動を経験し、その中で自らの生き方を見出していく学びである。いま1つは、学校・家庭・地域・産業界など異なるコミュニティに属する人々が結びつき、1つの教育活動を創造する越境的対話である。</p> <p>2. 地場産業を活用したキャリア教育実践の現地調査      地場産業を活用したキャリア教育実践における実施体制、特に学校が地域や外部団体とどのように連携・協働を図っているかに焦点を当てて現地調査を行った。調査対象は、ともに「焼物のまち」として知られる2つの地域の実践である。沖縄県那覇市壺屋地区では、キャリア教育関係民間企業や地域の焼物博物館がコーディネーターとなって実践が立ち上げられ、現在も小学校、陶器組合、博物館等の連携によりキャリア教育が実施されている（調査1）。愛知県瀬戸市では、商工会議所にキャリア教育コーディネーターが配置され、窓口が一元化されている。コーディネーターは、各学校のニーズに応じたプログラム提供、講師の派遣、教員や市民講師の支援等を行っている（調査2）。</p>
研究成果の発表状況	<p>城間祥子 2017 地域の伝統的工芸品を活用したキャリア教育における外部との連携 日本教育心理学会第59回総会発表論文集, p. 225</p>
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>平成30年度の学部生向け授業において、地域との連携や外部人材の活用方法について理解を深めるための教材として活用する予定である。現地調査で得られた資料をもとに、地場産業を活用したキャリア教育実践の事例を紹介するとともに、それぞれの連携の仕組みの利点と限界、学校側が注意すべき点などを示す。</p>